

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)

【公開番号】特開 2000-233411 (P2000-233411A)

【公開日】平成 12 年 8 月 29 日 (2000.8.29)

【出願番号】特願 平 11-38014

【国際特許分類第 7 版】

B 2 9 C 33/04

【F I】

B 2 9 C 33/04

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 12 月 12 日 (2003.12.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

【発明の実施の形態の使用方法】

次に発明の実施の形態の使用方法を説明する。

初めに、運転開始のための操作、即ち、液体循環路に液体を充填する操作につき説明する。

開閉弁 8 0 は閉じておく。また、流量調節弁 3 0 は少し開けておく。

その状態で、開閉弁 3 8、第 1 開閉弁 5 4、第 2 開閉弁 4 9 を開くと、液体供給源 4 3 から液体が開閉弁 3 8、フロート室 1 1 を経て、液体循環路に供給される。

なお、液体循環路内の空気は、フロート室 1 1、第 1 開閉弁 5 4、第 2 開閉弁 4 9 を通って、排液管 5 1 より排出される。そして、ほぼ液体循環路内に液体が満たされると、上記の状態のまま液体循環用ポンプ 7 1 を作動して、液体を空気と共に排液管 5 1 より排出する。

そして、フロート 1 5 が上下動しなくなったことをもって液体循環路に液体が充填されたことを知る。

その後、第 1 開閉弁 5 4、第 2 開閉弁 4 9 を閉じる。なお、開閉弁 3 8 は開いたままで保持する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

次に金型 2 6 の交換について説明する。

まず、液体循環用ポンプ 7 1・棒状のヒーター 6 7・射出成形機を非作動状態とした後、開閉弁 3 8 をあけたままの状態、第 1 開閉弁 5 4、第 2 開閉弁 4 9 を開き、開閉弁 8 0 を開く。

そうすると、パージエアーが、金型 2 6 を経て液体と共に排液管 5 1 より排出される。なお、その際、液体循環路から排出される液体に液体供給源 4 3 からの常温の液体が混合されるので、液体循環路から排出される液体を冷却しつつ排出することが出来る。そして、所定時間後に開閉弁 3 8 を閉じ、更にパージを行なう。

なお、液体循環用ポンプ 7 1 や往路導管 6 内の液体は完全には抜けないが、それは逆止弁

２４の作用によって金型２６を交換する際における支障とはならない。
その後、金型２６を交換する。